



放射線治療 ～肺がん～

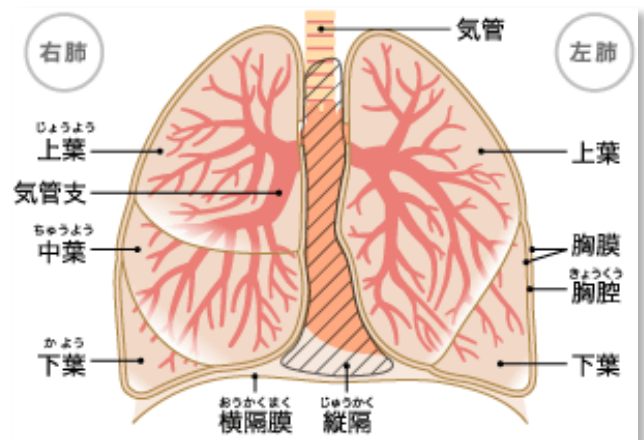
肺とは

肺は呼吸をするための器官で、呼吸によって吸い込んだ空気から酸素を体内に取り込み、体内から二酸化炭素を取り出して口から吐き出す役割をしています。口から入った空気は、気管を通り、左右の肺に分かれたあとで、さらに気管支に枝分かれし、最後には酸素と二酸化炭素の交換を行う肺胞にたどり着きます。

肺胞は小さな袋のようなものですが、肺はこれらの袋が無数に集まって、やわらかいスポンジのような構造になっています。その肺胞の数は、成人で 2 億～7 億個といわれています。さらに、肺胞のまわりを毛細血管が取り巻き、二酸化炭素と酸素のガス交換が行われています。

肺がんとは

肺がんは、肺の気管、気管支、肺胞の一部の細胞が何らかの原因でがん化したもので、進行するにつれてまわりの組織を破壊しながら増殖し、血液やリンパの流れによって広がっていきます。



肺がんの種類と治療法の関係

肺がんは大きく分けると、**小細胞肺がん**とそれ以外の**非小細胞肺がん**に分けられます。

小細胞肺がん

胸の中のリンパ節や他の臓器に転移をしやすく、手術が難しい場合は抗がん剤治療や放射線治療が選択されます。

非小細胞肺がん

小細胞肺がん以外のもの（腺がん、扁平上皮がん、大細胞がん）です。

肺がんの種類によって、効果のある抗がん剤が決まっています。最善の治療を行うためには、腫瘍の組織を採取し、顕微鏡で観察して種類を決定する病理学的診断が必須です。

肺がん 3 大治療法

手術療法 抗がん剤治療 放射線治療

3cm以下の早期の肺がんは、放射線治療のみで 80%程度完全に消滅するとの報告があります。

早期肺癌に対する定位放射線治療

対象

病変が肺の中に限局しており、転移のない患者様が対象です。このような早期の肺癌の治療方法としては、基本的には手術療法が第1選択となりますが、高齢や他の内科的な疾患を持っておられるために、手術の負担が大きい場合があります。定位放射線治療は、身体に対する負担が非常に少ない治療法で、このような患者様に対しても安心して行うことができます。

治療方法

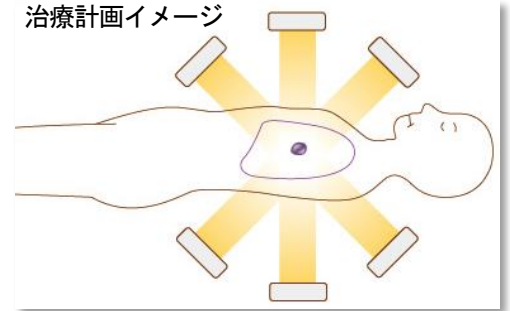
病変に放射線を正確に集中させて、1回に多くの放射線を照射することがこの治療の特徴です。通院での治療が可能な病院も多く、治療回数は5~10回程度です。

正常組織を避けて放射線を正確に病巣に照射するために、治療前に病巣の位置を画像上で確認し、治療計画を立てて照射を行います。また、多方向から照射するため、病巣には多く、正常組織には少ない放射線が照射されます。治療内容によっては、照射方向によって放射線の量を変えて照射することも可能です。呼吸により病巣部が移動するため、胸部レントゲン写真や胸部CT検査と同様、息止めをして治療を行います。(1回10秒程度)

定位放射線照射装置 (リニアック)

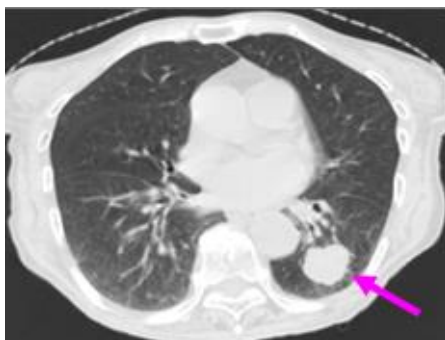


治療計画イメージ



早期肺癌に対する定位放射線治療の治療例

(左) 治療前 (左肺に約3cmの腫瘍)



(右) 治療後1年 (腫瘍は消失)



1年に1回、肺癌検診を受けましょう!

肺癌は早期発見が重要です。50歳以上の方、喫煙者や周りに喫煙者が多い方、血痰や頑固な咳等の症状がある方は、胸部レントゲン写真に加えて胸部CT検査をお勧めします。当院でも受診可能ですので、ご検討ください。



今後もニュースレターを発行し、皆様の健康管理に少しでも参考になればと思います。ぜひ皆様からのご意見、ご感想をお寄せください。今後もこのニュースレターやホームページ等を通じ、役立つ情報を発信してまいります。今後ともよろしくお願いたします。

公益財団法人早期胃癌検診協会 事務局

Tel.03-3668-6803/E-mail: mail@soiken.or.jp